

小学2年・国語、校内学習、オンライン学習 「ようすをあらわすことば」

イタリア・ローマ日本人学校

1 前提

学校環境

- » 小中8学級の小規模校である。
- » Wi-Fi環境がない教室もある中で、各教師は私物パソコンとスマホのテザリングを利用して授業を行っている状態であったため、2020年度のICTを活用した教育体制構築に関する実証事業を通してWi-Fi環境を再整備した。
- » また、各教室への電子黒板、書画カメラの配置を通して、個別最適化された学習を効率的に行い、教師が児童生徒の習熟状況を把握し、個に応じた支援を適切に実施することができることを狙った。

課題と目標

- » 自分の考えを発表する場面では、ノートでは見えにくいために発表用に大きな紙に書き写すなど時間がかかったり、計測器の目盛りなど見えにくいものの理解に時間を要したりすることが多かった。しかし、書画カメラを使用することで、児童生徒同士の考えが共有しやすくなることが期待できる。
- » 電子黒板を利用することにより板書をはっきりと見せることができたり、書き込んだ内容をデータ保存し提供したりすることができ質の高い授業展開が可能となる。

2 実践の内容

活用したICTツール

- » 電子黒板
- » 書画カメラ

具体的な活用方法

教科・单元名：国語科「ようすをあらわすことば」
本時のねらい：様子を表す言葉を使って、簡単な文を書くことができるようにする。

＜導入＞

前時までの学習を確認し、本時のめあてを知る
◎前時に取り組んだプリントのスキャンを電子黒板に映して振り返る。



＜展開＞

① 絵を見て文を考える

- ワークシートに記入する。最初は自由に文を作る。
- 教師がワークシートを書画カメラで撮影し、作文の部分を切り取り保存する。



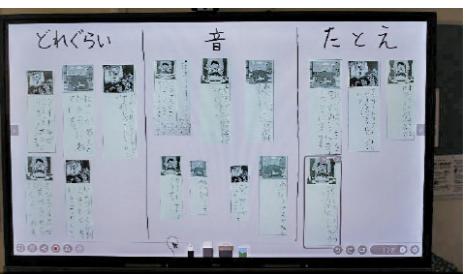
② 自分の作品を発表する

- 児童が保存した画像を拡大して発表する。



③ 「たとえ・音・どれぐらい」に分類する

- 児童が画像を縮小し、分類する。



④ 友達の発表を聞いて、良いところや、自分と同じところを発表する

- 自分とは異なる視点に気付くことができるよう支援する。

⑤ 3つの分類のうち、少なかったものに視点を置いて文を書く。

＜まとめ＞

- 次時での振り返りのために、まとめた画面をPDF化し、保存する。
○後日、印刷したものをおもに貼る。

3 成果

ICTツールを活用したことでできるようになったこと

- » タブレットなどで、児童にノートやワークシートの写真を撮って送ってもらえば、オンラインでも教室で授業するのと同様の交流ができる。
- » 書画カメラの動画の録画を使用すれば、動きがあるものも保存できる。録画したものを紹介して発表することで、他者に分かりやすく伝えることができる。

児童生徒、教師、保護者の反応

- » 3つの言葉を全部使うことができた。みんなで協力して、全部完成してうれしかった。電子黒板を使って、(画像を)自由に動かせるのが便利だなと思いました。
- » 電子黒板があって見やすかったです。色々な文を発表出来て楽しかったです。
- » 言葉を使ってたくさん文を書きました。(画像を手で操作して)小さくするのが大変だった。カメラ(書画カメラ)をもっと使いたいです。